

病診のとりくみ

「病診連携による

在宅医療への取り組み」

倉敷中央病院 地域医療連携・広報部

十河浩史

県南西部医療圏の人口は七十一万人、高齢化率二十九・一％となっています（第八次医療計画）。当院のある倉敷市の人口は四十八万人、高齢化率は二十六・九％（二〇一八年四月）で、旧倉敷二十四・一％、水島二十六・〇％、児島三十二・四％、玉島二十九・三％、真備三十三・七％、船穂三十・三％と既に三十％を超えている地区もあります。

病診連携では二〇〇二年から開放病床登録医制度（現在…内科八床・小児科一床・泌尿器科一床）を開始しています。二〇一七年度の利用は二五三件、五十七・一％で、

二十四診療所に利用いただきました。このうち共同指導に結びついたのは九十七件となりました。さらに昨年からの利用促進策を打ち出しており、この制度から退院時共同指導へつなげたいと思っています。

二〇〇六年の大腿骨頸部骨折地域連携パスの稼働から、在宅緩和ケアパス（以下、在パス）を含め疾患別地域連携パスが十三種稼働しています。地域連携パスは多職種で紹介から逆紹介まで地域全体で患者を診るフローを最適化できると思います。在パス（二〇一三年開始）は、毎月課題共有のためにミーティングを行い、受入れ側が困らないように退院前カンファレンス前後で必要な情報量や精度、伝達タイミングが適切だったのか振り返り、改善に繋がりました。昨年度実績は三十五件で、退院時共同指導は七十八件、そのうち三十二件が院外から三者に同席いただけました。

この実績を上げることができたのは、素地として二〇一〇年から在宅ケアを支える会を年四回開催し、在宅診療をおこなう医師、訪問看護、保険薬局、ケアマネジャー、セラピストの延べ一、二〇〇名に参加いただき共に学ぶ場（講演会と実技）を設けられたことが大きいと思います。他にも当院では年間約五〇の地域連携の勉強会を開催し、毎年院外から二、八〇〇名の医師を中

心に医療従事者が集い、そこで連携の課題を共有し改善してゆくサイクルが定着しています。

開放病床登録医総会 山形 専 院長



在宅ケアを支える会 呼吸リハビリの実習の様子



この春の診療報酬改定を機に、入院指示が出た時から入院支援室の看護師が転院を見据えた介入をする「地域に根差したペイシエント・フロー・マネジメント」の体制を強化しました。同時に、患者自身がかかりつけ医と急性期病院とどう上手に付き合うかを共に考える「わが街健康プロジェクト」も六年目に入り、違いを理解しかりつけ医をみつけたという報告があります。患者参加型の地域医療をこれからも推進してゆきたいと思えます。

岡山プライマリ・ケア学会総会並びに第二十五回記念学術大会の報告

みんなの心とからだ・生活を守る

プライマリ・ケア

多職種の和で進化しよう

平成三十年三月二十一日(水・祝)

岡山県医師会館 四階

四〇一・四〇二会議室

研究発表トピックス①

「診療所探検隊

楽しく診療所を知ってもらおう」

哲西町診療所 事務 河村智子



哲西町診療所は、複合施設「きらめき広場哲西」内に開所し、保健医療福祉だけでなく、行政・教育・文化・産業とも連携した地域包括ケアを推進中です。研修医や医学生等多くの研修を受け入れ、また、地域住民、各種団体や小中高生にも健康講座や職場体験、学校授業等を通し、色々な世代に対し様々な形で教育に携わっています。そのような中、住民主体で行われる「健康福祉まつり」にあわせて「診療所探検隊」を行っています。



主に小学生を対象としておりますが、平成二十九年度は高齢者も対象としました。まつりと言えば楽しむものという事で、参加者だけでなくスタッフ自身も一緒に楽しみながら、診療所の機能や医療についてわかりやすく伝えていきます。

診療所探検隊では参加者と診療所内を回り医療機器に触れてもらっています。



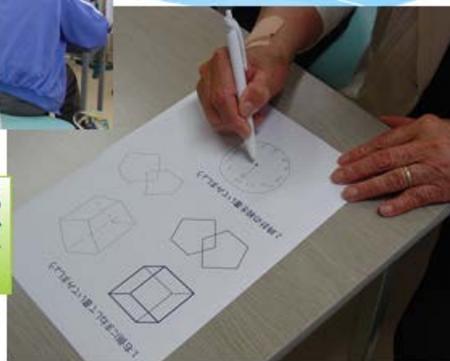
診療所内のレントゲン室、CT室、カメラ室、薬局、歯科をめぐるります。レントゲン室では鯛を撮影しスケッチブックに書いてもらう。CTではおもちゃ等を撮影するなどのように写るかのクイズ。内視鏡では壺の中を覗いたり、段ボールで作ったお友

達「哲西太郎君」の胃の中から誤って飲み込んだ異物を内視鏡と鉗子を用いて取り出す。薬の分包機では自分で調剤し、自分の名前入りのラムネの袋が出てくるところをみてもらう。聴診器を使つての音あてクイズ等、医療機器に気軽に触れてもらい楽しんでもらっています。さらに、実際に病変のあるレントゲン、CTのフィルムを見てもらい病気についても知ってもらっています。

また、高齢者を対象には簡単な認知症テスト等も行いました。



認知症に関する検査も実際に体験していただきました。



参加者からは「すごい機械があった」「大変楽しかった」と好評を得ていると共に診療所の機能や医療の内容に対し理解を深めてもらえました。医療事務員も医療機器に対する知識が深まり、検査について今まで以上に踏み込んだ説明ができる等、幅広くニーズに対応できるようになりました。またスタッフも参加者が驚いたり喜んだりしている姿を目にする事で、改めて診療所業務へのやりがいを感じる事ができました。



診療所探険隊を通して健康の大切さを伝え、子供達だけでなく若い親の世代や高齢者等を含め住民全体に診療所や医療を身近に感じてもらいたい、更に以前無医町になつた苦い経験から永続的に哲西の医療が守られるように、診療所探険隊に参加してくれた子供達が医療職に興味を持つきっかけになり、いづれ何十年後かに地元に戻り医療を支えてくれたらという願いもこめて一緒に楽しんでいきます。



研究発表トピックス②

「認知症予防のための聴力リハビリ

『聴・脳・力』リハ」

についてクリニック

妹尾早織・川上佳寿美
新津純子・新津頼一

超高齢社会に突入した現在、老人性難聴の対策は非常に重要であると言えます。高齢の難聴者において、聞こえにくさから確実な情報が得られない、会話が楽しめない、人の集まる場所に行けないといった訴えが多く聞かれます。この場合、補聴器装用の対象となつてきますが、「補聴器はやかましいばかりで役に立たない」と補聴器装用に抵抗を感じる方も少なくありません。

実は音を聞くのは耳ではなく脳です。難聴の脳に補聴器で音を入れてすぐ脳が反応できるとは言えません。補聴器の調整と同時に実際の生活の中で補聴器を使いながら「難聴の脳」を「聞き取りに十分な音量でも聞き続けられる脳」に変化させるトレーニングが必要です。これが聴力リハビリの考え方の基本です。

私たちはこの考え方にに基づき、聴力リハビリと同時に認知症予防のリハビリを組み合わせてグループで行うリハビリを「聴・

脳・力リハ」と称して実施しています。

【対象者】

補聴器装用から三か月以上経っても、満足度が低い、明瞭度が上がらない、装用しても人と会話をする機会が少ない方

【目的】

- 1 補聴器の装用、聞こえに慣れる
- 2 補聴器の効果を実感できる
- 3 補聴器を使えば完全に聞こえるようになるわけではないことを理解し、より円滑にコミュニケーションを取るための手段を身に付ける
- 4 複数人での会話の練習
- 5 認知機能の改善

【実施方法】

月に一回一時間。ST、OTが担当。
主に聴覚刺激による認知、記憶、注意課題を実施。
事前検査として、音場語音明瞭度検査・新日本版トークンテストを行う。

【実際の課題例】

① クイズ

目的…相手に伝えるための工夫をする・類推しながら聴き取る

方法…一名が提示された絵カードに関するヒントを出し、他の参加者はそのヒントを聞き取り、答える



② 音楽療法

目的…曲を聴き取る・楽器に合わせて歌う・音楽に触れて楽しむ
方法…OTが大正琴を弾き、参加者はその曲名を当てる・楽器に合わせて歌う

③ フリートーク

目的…複数人での会話の聞き取りの練習・参加者同士の仲を深める
方法…参加者同士が自由に会話する



【評価】

三か月後、事前検査で行った音場語音明瞭度検査・新日本版トークンテストを再度行い効果をみます。認知機能の低下が疑われる方には長谷川スケールを実施します。さらなるアプローチが必要と判断した場合は介護保険の検討を家族に促し、そのサポートも行っていくきます。

「聴・脳・カリハ」の取り組みは始まったばかりで、内容や評価方法など改善点は多々ありますが、「聴・脳・カリハ」を通して、参加者の方の社会参加促進とQOLの向上、そして認知症予防といった役割を果たすべく検討を重ね、より充実した内容を提供できるよう努めていきたいと思えます。

◆研修会延期のお知らせ

◎平成三十年七月十六日(月・祝)

岡山県医師会館四階 四〇一会議室

プライマリ・ケア講座

「東日本大震災―福島県の復興―」

右記研修会につきまして、今回の西日本豪雨のため延期とさせて頂いていただきました。ご参加を予定されていた皆様には、急な変更となりご迷惑をお掛けいたしました。

災害からの復興をテーマとしたこの研修会は、岡山での今後に繋げていくためにも来年二月に開催したいと思えます。詳細が決まりましたらご案内いたしますので、多数のご参加をお待ちしております。

今回の災害で被災された方々につきましては、少しでも早い復興を心よりお祈りしております。

◆ 学術大会のご案内

◎平成三十年九月三十日(日)

九時半～十七時

岡山県医師会館・岡山国際交流センター

第三回岡山県地域包括ケアシステム学会

学術大会

わが事、まる事、みんなで住み良い街づくり

～オール岡山で良質な支援の輪を～

【基調講演】

一、「地域包括ケアシステムにおける

リハビリテーションの役割」

日本リハビリテーション病院・施設協会／

全国デイ・ケア協会

会長 斉藤正身 氏

二、「地域包括ケアとまちづくり」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

教授 浜田 淳 氏

三、「地域包括ケアシステムにおける

円城安心ネットの取り組み」

医療法人塚本内科医院

院長 塚本真言 氏

【シンポジウム】

「地域の中で多職種と関わる

地域包括ケアシステムを考える」

◆ 入会のご案内

★ 申込書は、HPからダウンロード出来ます。

<http://www.p-care-okayama.com/>

岡山プライマリ・ケア学会 入会申込書

岡山プライマリ・ケア学会
会長 藤嶋 寿紀

日本プライマリ・ケア学会が平成21年に日本プライマリ・ケア連合学会として再出発したのを機に、日本プライマリ・ケア学会岡山支部は、岡山プライマリ・ケア学会として設立しました。基本的には、今までの20年の歴史を継ぎ、岡山の特色ともいえる多職種連携のもとに推進いたします。これらの活動には、岡山県医師会から多大のご協力を得ています。

◎ 具体的な活動

1. 学術大会(平成27年度・第25回)
2. 多職種多団体との連携
3. 認知症を地域で支える方策と実践活動
4. 在宅療養に有効な連携(バスケット)の普及【連携シートむすびの初】
5. 医療従事者

詳細は、ホームページをご参照ください。「岡山プライマリ・ケア学会」で検索。



年会費：医師・歯科医師・薬剤師：5,000円
その他：2,000円

【申込み】 平成 年 月 日	
氏名：	職種：
連絡先(職場・自宅)	
住所(〒)：	電話番号：
所属(連絡先が職場の場合は)：	

申込先：岡山プライマリ・ケア学会 FAX：086-251-6822

◎どなたでも入会出来ます。 ◎入会は随時受け付けます。

編集・発行

岡山プライマリ・ケア学会 事務局

〒700-0024

岡山市北区駅元町 19-2

(岡山県医師会内)

TEL：086-250-5111

FAX：086-251-6622

Eメール：gakkaip@p-care-okayama.com

編集後記

今回編集委員二名は、三十五度を超える猛暑の中、倉敷保健所からの真備町全戸訪問調査ボランティアに参加しました。

「大変ね」とねぎらってくださった被災者の皆様の一日も早い復興を祈念し、災害が人災につながらないコミュニティ作りが進むことを願います。

編集委員

佐藤 涼介
菅崎 仁美
丸田 康代
藤井 真理子

